

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第3回 保健・福祉部会	
日時	平成22年11月10日（水）午後1時から午後2時30分	
会場	長野市役所第一庁舎 8階 第一委員会室	
出席者	作業部会員 (敬称略)	立浪澄子、小山順子、三浦靖雄、芝波田利直、竹元忠造、谷憲昭
	関係課員	男女共同参画推進課、厚生課、障害福祉課、保育家庭支援課、人権同和政策課、産業政策課、学校教育課、企画課（事務局）

I 会議次第

- 1 開 会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第2回 保健・福祉部会 会議概要について
- 4 ワークショップのまとめについて
- 5 本日の日程等について
- 6 ワークショップ
 テーマ：政策1-3 自分らしく生きられる社会の形成
 テーマ：政策1-5 人権を尊ぶ明るい社会の形成
- 7 その他
 - (1) 今後の予定について
 - (2) 事前課題シート（宿題）について
- 8 閉 会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 市民フォーラム21 第2回 保健・福祉部会 会議概要について
 第2回 保健・福祉部会（10月21日開催）の会議概要について、資料1のとおり確認した。
- 4 ワークショップのまとめについて
 「生きがいのある豊かな高齢社会の形成」をテーマにワークショップで検討した意見を資料2のとおりまとめることで確認した。（第2回 保健・福祉部会 10月21日開催）
- 6 ワークショップ
 テーマ：政策1-3 自分らしく生きられる社会の形成
 テーマ：政策1-5 人権を尊ぶ明るい社会の形成
 2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙のとおり発表があった。
- 7 その他
 質疑
 - ・本日のワークショップで、専門部会員から提示されたアンケート結果が参考になったので、担当課で実施しているアンケートがあれば、次回のワークショップで提示してもらいたい。
 - ⇒次回の2テーマについて、関連するアンケートを確認して提示する。

学校

- 学校教育の場でもっと障害理解を(例)松本短大
- 発達障害等特別な支援を必要とする児童・生徒が増加傾向にある
- 障害児の発達支援や保護者の心情に寄り添ったつながりが機関としてとれていない
- 特別支援学校の高等部が不足している
- 高校に特別支援学級がない
- 支援の手が繋がっていない
- 幼保小の連携が必要
- 特別支援教育支援員を派遣している
- チーム支援が必要。特別支援教育コーディネーターを中心に対応
- プライバシー保護への配慮が必要

理解・外国人の理解

- 生活保護が外国人にも使えることを知って欲しい
- 在留・滞日の人に対する理解を、現場の職員にしてもらう
- 就学判定と異なる措置となることがある(保護者の理解)
- 難病を持つ障害者(老人、小児)の理解不足
- 色々な考え方がありがあるので、受け入れる広い考え方が必要
- 障害者に対する偏見がある、無関心(点字ブロック上に自転車)

地域

- 他人との関係が強く結ばれることが出来る社会
- 隣近所の関係が希薄になり、かえって自分勝手な生き方になっている
- お互いに話し合える場所づくり
- いろいろな人がいることの啓蒙、実感できるコミュニケーションの場
- 地域の中で楽しく暮らす居場所づくり
- 地域福祉計画に障害者、里親、外国籍の人も参画する

災害時

- 障害者の災害時の対応に不安がある

生活環境

- 障害者であっても自分が生まれた地域等の生活環境を整えた中で暮らせる
- グループホームが増えてきているがまだまだ不足している
- 高齢者に比べ障害者のショートステイの入所が難しい

交通

- バリアフリー対策の一元的な施策・方法の見直し(点字ブロック対応)
- 公共交通が便利な施設に利用者が偏ってしまっている。
- バリアフリーの実現に当事者の参画
- 交通問題に対応した環境

ボランティア

- 社会の一員としてボランティア活動に参加したい

障害者

- 共に楽しく暮らすためのルールづくりをする
- 国がしっかりした法制度を作ることが必要(障害者対策等)
- 障害者と共に生きる社会の構築
- 障害者の保護者の高齢化が進んでいる
- 障害者が生きがいを持って生活できるようにする

働く

- どんな体制でも働ける環境があることは大切
- 授産作業による収入が減っている

自分・趣味

- 社会のために趣味を活かした生活をしたい
- 自分らしく生きられるということをも自分のものにすることが一番難しい。
- 生き方の教育が要る
- 自殺防止対策が必要である

子ども

- 子どもの人権の対応策が必要である
- 子ども社会での差別が起こっているのではないか
- 幼保小中高のいじめの実態はどうなっているのか
- いじめが増え根深くなっているが、学校教育・家庭教育をどうしていくかが課題である
- 家庭教育の大切さをどう進めるか
- 親の教育不足が子どもの人権に関わる
- 児童虐待の実態はどうなっているのか
- 児童虐待が増加傾向である

女性

- 女性相談所が多く分かりづらいので集約化が必要ではないか
- 習慣・しきたりなどまだまだ男女不平等な状況がある
- 女性の社会参加が増加してきた
- 地域・職場でのセクハラの実態はどうなっているのか
- DVの実態はどうなっているのか

虐待

- 老人虐待の実態はどうなっているのか
- 高齢者への虐待がある

男女共同参画

- 住民自治協議会の中にも共同参画関係の担当がある
- 法律・条例・計画など環境は整ってきている
- ワークライフバランスの推進が必要である
- 性別による固定的な役割分担意識が是正されない
- 性別による差別がある
- 女性団体の活動が行われている
- 男女共同参画に対する理解がわずかずつだが進んでいる
- 育児・介護休業など制度が充実してきている
- 男性の育児休業に対する理解が少しずつ進んでいる(首長の育休など)
- 男性の家事・育児への参画がなかなか進まない
- 母子のみでなく父子への対策がされた
- 男が家事、育児に関わるインフラ整備(保育園等の長時間保育)が必要ではないか
- 男性側からの視点も含めた男女共同参画が必要である
- 精神的・経済的に自立する必要がある
- 男らしく女らしくから自分らしくへ
- 自立するための支援に変わってきている
- 親が育った家庭環境によって子どもへの接し方が変わってしまう

人権

- 人権には多くの課題がある
- 全ての施策に「人権」の視点が必要
- 地域でのつながりがなくなっている
- 差別事象が未だある
- 同和問題があまり報道されなくなったのは、改善されたと考えてよいのか
- 同和問題を中心とした啓発教育が進められてきた
- 人権相談はどんな事例を受けるのか
- 「人権」に特化した相談体制を作っていく必要があるのではないか
- 総合相談窓口があると良い
- 人権に関わる窓口を広報しないと相談しにくい
- 行政に寄りかかりすぎている傾向にあるのではないか
- 外国人の人権対策も必要である
- 個人情報保護法を正しく理解していないことが支障となるケースがある
- 成年後見人制度の理解不足がある

意見

- 個人情報保護法が正しく理解されていない
- 男女が理解していく教育が必要である
- 無縁社会になっている
- 行政にあまりにも寄りかかりすぎている
- 虐待家庭は元々子育て能力が身につけていない親が多いという実態(負の連鎖)
- 子ども虐待に関する負の連鎖をどう断ち切っていくか
- 仕事と子育てと両方に全力投球を求められる母親にどんなサポートが必要か
- 保育のインフラ整備だけで子どもがうまく育つのか